

1990年に大阪大学によって着手され、その後愛知教育大に引き継がれたトルコ共和国ムーラ県エリュデニズ地域における古代末期・初期ビザンティン会堂群の調査・発掘は、現在財政基盤を失って中断されている。しかし発表者はこの間に、これまでの成果を詳しく吟味し、この歴史的地域とそこにある都市、建築遺跡、装飾等の正しい解釈をおこなう地歩を固めようと努力している。

それについて、解釈の視点はさまざまであろうが、考古学遺跡としての本地域固有の問題をある程度解決しておくことが先決である。つまり、この地域に関してはほとんど文献資料が存在しない。そのため、まず乏しいとはいえ今日までに獲得した資料から、遺跡のおおよその年代と編年を割り出すことが急務である。近年、現地博物館が中心となって行った発掘は、技術的にはさまざまな難点を含んではいるものの、編年に関し最重要である貨幣に関し新たな資料を提供した。これまでの成果にこの新たな知見を加え、発表者は一昨年以來、編年の試みに着手し、一、二の成果を発表してきた。(辻 成史 「エリュデニズ(トルコ共和国ムーラ県フェティエ市)の古代末期・ビザンティン遺構と装飾の編年(1)貨幣 ―その1―」ヘレニズム～イスラーム考古学研究会編 『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』(金沢 2006)』 pp.68~80.; "Observations on Some Architectural Details of the Monuments in Ölüdeniz: Chronology of the Monuments in Ölüdeniz, Lycia, TC. (II,1) ヘレニズム～イスラーム考古学研究会編 『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』(金沢 2007)』(印刷中))

発表者は、より最近の発表で、東地中海沿岸地域に点在する古代末期・初期ビザンティン遺跡のうちから、以下に見るようにすでに発掘を完了し、相当の解釈を経てその歴史的意味づけを獲得している類似の例を選び出し、それとの比較においてエリュデニズ地域の作例の解釈を試みた。

(1) J.-P. Sodini – K. Kolokotsas, *Aliki, II: la basilique double* (Text and plates volume) (=Étude thasiennes, X) (Paris 1984) 2)I. Achim, "Les baptistères paléochrétiens du Diocèse de Thrace. Le cas des provinces de Thrace, de Mésie Seconde et de Scythie Mineures," *Cahiers archéologiques*, 51 (2003~04), pp.5~27. 3)M. Ballance et al., *Excavations in Chios 1952-1955. Byzantine Emporio*, (=British School of Archaeology at Athens, Supplementary Vol.20)(Oxford 1989). 4)G. Ciotta – L. P. Quaglino, "La cattedrale di Hierapolis," D. De B. Ferrero (ed.), *Saggi in Onore di Paolo Verzone*, (*Hierapolis, scavi et ricerche*, IV), (Rome 2002), pp.179~201)

本発表はこの昨年度の建築遺跡の編年に関する論に続くものであるが、発表の限られた時間に従い、おそらく四世紀中ごろまでに各地に発生したと思われる聖人の墳墓を核とし、そこから五世紀初頭における相当規模の会堂の建設へ、さらに六世紀にかけての洗礼室／洗礼槽の増設にと至る経緯をたどり、そこに相対年代の想定が可能であるかどうかを探りたい。